

# 国語科学習指導案

令和4年10月 第2学年 指導者 高地 春見

1 単元名 想像したことを音読劇で表そう（教材名『お手紙』）

2 単元観 ※省略

3 児童の実態及び指導方針 ※省略

4 研究との関わり ※省略

## 5 単元の目標

- (1) 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。（知識及び技能）
- (2)① 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思考力、判断力、表現力等）
  - ② 文章を読んで感じたことや分かったことを伝え合い、互いの思いや考えを理解することができる。（思考力、判断力、表現力等）
- (3) 進んで場面の様子や登場人物の行動を想像し、言葉を通じて他者と関わり合いながら、読み方がよりよくなるように粘り強く考え、音読劇で表すことができる。（学びに向かう力、人間性等）

## 6 単元の評価規準

(1)知識・技能

- ① 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。

(2)思考・判断・表現

- ① 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。
- ② 文章を読んで感じたことや分かったことを伝え合い、互いの思いや考えを理解している。

(3)主体的に学習に取り組む態度

- ① 進んで場面の様子や登場人物の行動を想像し、言葉を通じて他者と関わり合いながら、読み方がよりよくなるように粘り強く考え、音読劇で表そうとしている。

## 7 指導と評価の計画（全12時間）

過程	時間	●ねらい ○学習活動 ☆ ICT活用	知	思	態	◇評価項目<方法（観点）> 〔記〕：記録に残す評価
つかむ	1	●範読を聞くことを通して、初発の感想をもつことができる。 ○範読を聞く。 ○初発の感想をワークシートに書き込む。 ○タブレットで、初回の音読劇の様子を記録する（☆）。			○	◇範読を聞いて、読んでみたいところや、音読の仕方で考えてみたいところ等を進んで見付けている。<ワークシート・観察・タブレット（態①）>
	2	●自分の音読を聞く活動を通して、学習課題を設定することができる。 ○これまでの音読の学習を想起し、今の自分の音読を基に課題を見出したり、	○			◇語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読しようとしている。<ワークシート・観察・タブレット（知①）>

		<p>願いや思いをもったりする。</p> <p>○学習課題と学習計画を設定し、学習の見通しをもつ。</p>				
		<p>[単元の学習課題]</p> <p>がまくんやかえるくんになりきって音読し、他のクラスの友達に音読劇にして発表しよう。</p>				
追究する	3	<p>●挿絵を並び替える活動を通して、話の大体を捉えることができる。</p> <p>○作者、登場人物、会話文を確認する。</p> <p>○内容の大体を捉える。</p> <p>○どの登場人物が好きか、理由とともに考える。</p>		○		<p>◇場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。</p> <p>&lt;観察・発表(思①)&gt;</p>
	4	<p>●『スイミー』の学習を想起することを通して、音読の仕方を確認し、1の場面の読み方を考える。</p> <p>○前の単元の学習を想起し、音読の際に工夫したいことやその根拠を確認する。</p> <p>○1の場面の台本に、考えた音読の仕方を書き込む。</p>		○		<p>◇場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。</p> <p>&lt;ワークシート・振り返り・観察(思①)[記]&gt;</p> <p>◇文章を読んで感じたことや分かったことを伝え合い、互いの思いや考えを理解している。</p> <p>&lt;ワークシート・振り返り・観察(思②)[記]&gt;</p>
	5	<p>●考えた読み方を試したり、想像した場面の様子や登場人物の行動を伝え合ったりすることを通して、音読の仕方を考えることができる。</p> <p>○前時に考えた台本をもとに、1の場面を読み深め、場面の様子が表せるような音読の仕方を考える。</p>		○		<p>◇進んで場面の様子や登場人物の行動を想像し、言葉を通じて他者と関わり合いながら、読み方がよりよくなるように粘り強く考え、音読劇で表そうとしている。</p> <p>&lt;ワークシート・振り返り・観察(態①)[記]&gt;</p>
	6	<p>●2の場面の台本を作る活動を通して、場面の様子やかえるくんの行動を具体的に想像することができる。</p> <p>○想像した場面の様子が表せるような音読の仕方を考える。</p>		○		
	7	<p>●3の場面前半の台本を作る活動を通して、場面の様子や、がまくんとかえるくんの行動を基に、音読の仕方を考えることができる。</p> <p>○想像した場面の様子が表せるような音読の仕方を考える。</p>		○		

8 本時	<p>● 3の場面後半の台本を作る活動を通して、場面の様子や、がまくんとかえるくんの行動を基に、音読の仕方を考えることができる。</p> <p>○ 想像した場面の様子が表せるような音読の仕方を考える。</p>			○	
<p><b>【本時のめあて】</b>  <b>がまくんとかえるくんになりきって音読するために、3の場面の後半をくわしく読んで、よりよい読み方を研究しよう。</b></p>					
	<p>9 ● 4の場面の台本を作る活動を通して、場面の様子や、がまくんとかえるくんの行動を基に、音読の仕方を考えることができる。</p> <p>○ 想像した場面の様子が表せるような音読の仕方を考える。</p>			○	
ま と め	<p>10 ● 互いの台本を交換して読んだり、互いの音読を聞き合ったりする活動を通して、考えた音読の仕方を修正したり発展させたりすることができる。</p> <p>○ 班ごとにお気に入りの場面を選び、これまでの学習を基に音読の仕方を考える。</p> <p>○ プレ発表会を行い、他の班の発表を基に音読の仕方を見直したり、さらに練習したりする。</p> <p>○ 互いの台本を交換して読むことで、考えた音読の仕方が想像したことに沿っているかを確認したり、修正点を見出したりする。</p> <p>○ タブレットで音読劇の様子を記録する(☆)。</p>	○		○	<p>◇ 考えた音読の仕方を試したり、他者と読み合ったりし、よりよい音読の仕方を粘り強く考えようとしている。</p> <p>＜ワークシート・観察（態①）〔記〕＞</p> <p>◇ 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。</p> <p>＜ワークシート・観察・タブレット（知①）〔記〕＞</p>
	<p>11 ● 他のクラスと合同で発表会を行い、音読劇を発表することができる。</p> <p>○ 班ごとにお気に入りの場面を、音読劇で発表する。</p> <p>○ 他のクラスや他の班の発表から、自分達にはないよさを見つけて伝え合う。</p>			○	<p>◇ 場面の様子や登場人物の行動を根拠として、友達の音読劇のよさを記述したり、伝えたりしている。</p> <p>＜ワークシート・観察（思②）〔記〕＞</p>
	<p>12 ● 初めに記録した自分の音読や、これまでの学習記録を見ながら、学習を振り返ることができる。</p> <p>○ 初めの学習課題を確認し、本単元でできるようになったことを振り返る。</p> <p>○ どの登場人物が好きかを再度考え、読み方を研究する前と比較する。</p>			○	<p>◇ 単元の学習を振り返り、よりよい音読の仕方を粘り強く考えられたことを自覚している。＜ワークシート・観察（態①）〔記〕＞</p>

	○タブレットに音読劇を録音し、初回の音読劇と比較することで、できるようになったことに気付く（☆）。				
--	---	--	--	--	--

## 8 本時の展開（8/12時間目）

### (1) ねらい

3の場面の後半の音読の仕方を、試したり伝え合ったりしながら試行錯誤することを通して、言葉や文を根拠に想像したことが表せるような音読劇にするための音読の仕方を考えることができるようにする。

### (2) 準備

教科書の拡大用紙、台本シート、タブレット、電子黒板、実物投影機

### (3) 展開

時間	○学習活動 ・想定する児童（生徒）の意識 ☆ ICT活用	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ●努力を要する児童（生徒）への支援 ◇評価項目＜方法（観点）＞
導入 5分	1 本時のめあてをつかむ。 ○前時までの学習を振り返る（☆）。 ○本時のめあてを考える。 ○本時に読むところを確認し、声に出して読む。 ・「ああ。」という台詞をどう読んだらがまくんの様子が伝わるだろう。 ○本時の流れを確認する。	○前時までの学習の流れや単元における本時の位置付けが分かるように、学習計画表を使って確認する。 ○前の時間で振り返った時のことが生かせるように、前時の振り返りを全体で共有する。 ○本時の課題解決に向けて見通しがもてるように、音読をする時に用いるとよい視点を全体で共有する。
	<p><b>[本時のめあて]</b> がまくんとかえるくんになりきって音読するために、3の場面の後半をくわしく読んで、よりよい読み方を研究しよう。</p>	
展開 ① 7分	2 音読の仕方を試しながら考える。 ○自分の問いの部分を中心に、どのように読んだらよいかを考え台本シートに読み方を書き込む。 ・「ああ。」は、なるほどなと思ったから、大きな声でビックリした感じで読んでみよう。 ○自分が考えた台本をもとに、声を調節しながら実際に声に出したり、動作化したりしながら、考えたことが表せる音読の仕方になっているかを試す。	○場面の様子や登場人物の行動に即した読みができるように、叙述を根拠として音読の仕方を考えることを全体で共有する。 ◎自分の考えを具現化するために、動作化や声の調節を実際に試す活動を設定する。 ○考えた音読の仕方を確かめるために、書き込みをしたことや考えたことを試すように促す。 ○悩んだり、分からなかったり、他の友達に聞いてみたいところを明らかにしながら読むように促す。 ●音読の仕方が思いつかない児童には、近くの児童と話しながら考えるように声をかける。
展開 ② 10分	3 考えたことを全体で交流する。 ○数人を指名し、全体で音読の仕方を考える。 ・「ああ。」は感動しているから小さく読むというのは、考えなかったな。	◎自分の考えと似ているところや、違うところを比較しながら聞くように促す。 ○叙述に即して読むことができるように、どのような絵や文から、人物の様子を思い浮かべたのかを問う。 ○新たな気付きを促すために、異なる読み方をしている児童を指名する。

	○発表者の台本シートをタブレットで撮影し電子黒板に映す(☆)。	○場面の様子や登場人物の行動を思い浮かべながら聞くことができるよう、発表者が、どうしてそのように読んだのかを考えながら発表を聞くように促す。
展開③ 9分	4 音読の仕方を試しながら、さらに考える。 ○交流の場で考えたことを基に、自分が考えた台本を振り返り、考えたことが表れる音読の仕方になっているかを試しながら再度考える。	◎自分の考えを具現化するために、動作化や声の調節を実際に試す活動を設定する。 ○考えた音読の仕方を確かめるために、書き込みが終了したら試しながら練習するように促す。 ○悩んだり、分からなかったり、他の友達に聞いてみたいところを明らかにしながら読むように促す。
展開④ 7分	5 考えたことを交流する。 ○友達と台本シートを交換し、交換した相手に、自分の台本シートを声に出して読んでもらい、一緒によりよくなるように考える。 ・Aさんと一緒にやってみたら、小さく読んでもらった時の方が、がまくなが感動している感じがしたな。	◎読み方がよりよくなるように、考えた音読の仕方を聞き合ったり、その音読の仕方でも読み合ったりする活動を設定する。 ◎叙述に即して音読の仕方を考えられるように、友達と台本シートを交換する時に、音読の仕方の根拠を質問するように促す。 ○初めに考えたことと、演じてもらった後に考えたことが分かるように、書き込む色を変えて書くよう促す。 ◇進んで場面の様子や登場人物の行動を想像し、言葉を通じて他者と関わり合いながら、読み方がよりよくなるように粘り強く考え、音読劇で表そうとしている。 ＜ワークシート・振り返り・観察(態①) [記]＞
まとめ 7分	6 本時の振り返りをする。 ○今日の場面について、試したり、友達と考えたりして、よりよくしたことを発表する。 ○今日の授業で考えたことを振り返りに書く。 ○学習計画をもとに次時への見通しをもたせる。	○友達の考えの変化やその根拠を共有できるよう、本時の学習を通して考えが変わったり、根拠が明確になったりした児童を意図的に指名する。 ○本時の学習を振り返り、次の学習に生かすことができるように、「音読の仕方を研究してみて、よくしたところや分かったこと」を記述するように促す。

(4) 板書計画

